

2012 年度活動テーマ
発酵食品で放射能に打ち克つ健康づくり。
人々の協同で被災地復興と大地再生。

発酵と復興 2年目

COOP-JOSO News Letter

【ものづくり 人づくり 地域づくり】

「脱原発くらし見直し委員会」 2年次が新たな体制でスタートしました。



- 新役員体制 委員長：高橋さん・事務局長：稲垣さん
- チーム活動のスタート
 - ①低線量内部被曝「チェルノブイリ健康影響」(翻訳) チーム
 - ②くらし見直しチーム ③憲法をくらしに生かすチーム

次回、委員会は 8 月 1 日 (水) 10:00 ~ 13:00 本部 1F 会議室です。委員さん以外でも気軽に参加下さい。

【催しもの案内】 7/ 16 (月・祝) 「第 52 回 茨城県母親大会 in 東海村」に寄せて

第 52 回茨城県母親大会が東海村で開催される。しかも、スローガンは「原発をなくし、平和な社会を」と。シンポジウムでは「原発のない社会をどうつくるか」と題して、福島の子どもたちを放射能から守る福島ネットワークの佐藤幸子さん、東海村の村上村長さん、茨城大学の渋谷先生をお呼びしてディスカッションが行われる。

1954 年アメリカがおこなったビキニ環礁での水爆実験により日本の漁船第五福竜丸をはじめ周辺にいた多くの船の船員が被ばくし、亡くなった。島民は被ばくし、島から避難。いまだ島に戻れていない。(今、再び福島が同じ目に遭っている)

衝撃を受けた日本の母親たちは翌 1955 年「核戦争の危機から子どもの生命を守る母親の大会」として母親大会を開催し、それは世界に広がる。

日本の母親たちが世界に核の廃絶を訴えたことで、米ソは大気圏内核実験をやめざるを得なくなった。日本の母親はこうした歴史を持つ。

そして 2011 年、福島原発事故によって本当にわが子たちが被ばくしてしまうという歴史の現実に直面し、母親大会の原点であった「核被ばくから子どもの生命を守る」が現実のスローガンとなってしまった。再び母親たちは立ちあがる。

日本政府は、「被ばくしても安全だった」と宣伝し、「なかった」かのように隠し、拳げ句にどさくさにまぎれて、「原子力基本法」を改定して原子力発電の目的に「安全保障」=軍事目的(核兵器保有のためのプルトニウム生産)をこっそり忍ばせた。「核の平和利用」の化けの皮がはがれた。

7/16 (祝)、母親たちよ 東海村へ! (大石)

総代会：脱原発くらし見直し委員会からの報告と提案

報告者 稲垣芳さん

●脱原発くらし見直し委員会の活動報告をいたします。

○一つ目に、「チェルノブイリの健康影響」の翻訳をしました。みんなでページごとに分担して、中には家族や知人の力も借りて、正月休みを返上して翻訳しました。

専門用語が多く解釈も難しいのですが、放射能の健康調査を報告したもので、内容も深刻で重いものだったので、正直たいへんつらい作業でした。放射能の被曝の影響は、がんのみならず、むしろそれ以外の様々な病気の発症や、免疫力の低下を及ぼすことが記録されています。

今回の日本での福島事故でも 事故の規模や汚染状況や食生活などは異なりますが、教訓となる重要な資料です。

今年度の委員会では、チェルノブイリと福島の被ばく・汚染実態をよく比較検討したうえで組合員のみなさんにこのレポートを使った勉強会を開催してゆきたいと思います。

○次に、このようなパンフレットを三種類作成しました。地域の方々へ原発や放射能被曝について知っていただきたいと、お医者さんの黒部先生や、小川仙月さんの講演会の内容をまとめたパンフレットや、東海第2原発の廃炉を訴えるパンフレットを作りました。

パンフ作成チームを発足して、6～7名で何度か集まって作成しました。どうしたらわかりやすく伝えられるかを話しあひまして、手書きのイラストを加えたり、夜遅くまでかかって手作りました。

今後もお役に立てたらうれしく思います。

○次に、他の地域の方々との交流です。

昨年10月、福島県のあいコープ福島のあかちゃんに、綿からつくったお布団を届けに行き、お母さんたちと交流しました。茨城以上に汚染された福島で生きていくことの不安や強い決心を知ることができました。



2月、3月の委員会では、福島県から山形に避難

された方が一人ずつ出席され、福島は国から見捨てられたという思いや、今福島の家族、友人、地域の間でさまざまな分断があることも知りました。

4月の委員会では、JCO臨界事故から立ちあがって活動されているひたちなか市のお母さんが参加され、そのつながりで翌5月には東海村に行きまして、茨城の県央や県北で立ちあがったお母さんたちと交流しました。

県南や東葛地域ほどには汚染されていない、またまわりには必ず原発の関係者がいる環境の中で原発に反対することのたいへんさを知りました。

○脱原発委員会の委員が参加したもので代表的なものをご紹介します。

脱原発を実現するために昨年9月に開催された「さようなら原発 5万人集会」に、今年2月には東海第2原発を人の鎖で囲む「ヒューマン・チェーン」に参加しました。

同じく2月に、茨城県各地で子供たちを守りたいと立ちあがったお母さんたちの集まりといっしょに、茨城県職員との意見交換会に参加しました。子どもたちの健康調査の必要性を訴え要望しました。そして4月には福島原発事故から1年というパネルディスカッションに母親代表として常総生協の活動や日々の思いなどをお話ししました。

また市民と科学者による内部被曝問題研究会に

加わりまして、ベラルーシのマリコ先生の講演会に参加しました。

それから2回開催された広瀬隆さんの講演会の開催には委員の小張さんが活躍されました。

●つづいて、今年度2012年度の主な活動方針を3つ挙げます。

ひとつは、先ほどご紹介したチェルノブイリの健康影響というレポートを用いた勉強会の開催です。

ふたつめには、子どもたちの定期的な被曝健康診断を国や行政などに求めていく活動です。

みつめは、組合員向けに内部被曝についての勉強会開催を考えています。

●最後に、委員会では二つのドキュメント映画の

DVD 試写会をしました。 みなさんにとっても必要な情報が入っていると思うので紹介させて下さい。

ひとつめの映画は「チェルノブイリ・ハート」です。チェルノブイリ事故から16年目の病院や施設で心臓に奇形があったり、手足や身体に障がいをもって生まれてきた子どもたちを写し、被ばくによる健康影響を訴えた映画です。

もうひとつの映画は「10万年後の安全」です。原発の使用済み燃料は10万年という気の遠くなるような年月の保管が必要なんですけれど、フィンランドのオンカロにそのために建設された施設とその関係者のインタビューで、使用済み核燃料や核廃棄物を保管することの難しさを知ることができる映画です。機会がありましたらぜひご覧ください。

以上です。ありがとうございました。

(2012.6.9 総代会にて)

7/2(月) 第11回 脱原発くらし見直し委員会

【日時】2012年7月2日(水) 10:00～14:00

【場所】生協本部 1F 会議室

【議題】

(1) 2年次運営について

○運営体制

委員長に高橋さん(理事)、事務局長に稲垣さん、運営委員に加藤さん、野口さん、小松田さんを選出し、議題の設定などの運営を計画的に行うこととしました。

○チームづくり

委員会の中に3つのチームをつくることになりました。

① **チェルノブイリ健康影響翻訳チーム(低線量被曝健康影響チーム)** ～リーダー 茂田さん

② **くらし見直しチーム(子ども達の7千保養や安全な遊び場確保も含む)** ～リーダー 戸塚さん

③ **社会を見つめ変える・・・憲法をくらしの中に生かしてゆくチーム** ～リーダー 都留さん

○広報体制・連絡体制

今後「委員会だより」の発行を考えます。議事録を順番で作成しておき、委員会だよりで活動内

容を組合員にお伝えしていくこととしました。委員会内部の資料はプロジェクターなどの利用でできるだけ少なくすることとしました。内部の連絡体制はメールも積極活用することとしました。

(2) 「原発事故初年度被ばく・汚染実態調査報告書」

6/22 理事会にて「初年度被ばく・汚染実態調査報告書」作成の決定を受けて、この報告書の中に脱原発委員会で調査研究した成果も盛り込むこととなりました。

(3) 外部への情報の公開やデータ検証について

マスコミ等の取材も多くなっているため、情報提供上の注意事項や、公開するデータの事前内部検証等をきちんと行う体制をとることとしました。

(4) その他

柏市では除染アドバイザーの派遣、放射能プレミアムドックセンターが開設されたことの報告。

牛久市によるホールボディカウンター測定の問題点。福島での協同組合の集いでは、放射能に対し考えることをやめてしまう人(減志力)が増えていることなどが報告されました。

■次回委員会 8月1日(水) 10:00～生協本部会議室で開催します。委員会は原則公開ですので組合員さんであればどなたでも参加できます。どうぞお気軽にご参加下さい。

第20期(2012～2013年度) 役員抱負・所信

よろしくお願ひします！



役職	氏名	地区	抱負
理事長	村井 和美	常任	食を通して集う皆さんと「原発はいらない」はもちろんのこと、自然と共にある私たちの暮らしを守り抜くために、最大限力を合わせられるよう努力していきたいと思ひます。信頼の拠り所となれる常総生協でありますよう、気持ち繋げていきましょう。よろしくお願ひ致します。
副理事長	大石 光伸	常任	常総生協の組合員・生産者の中で育てられ「自立と協同」を信じてここまで来ましたが、震災・原発事故はショックでした。大切にしてきたものが一瞬で汚染されてしまった絶望感がありました。分断や差別や格差という社会の実相もこの目で見てしまいました。こうした時代に生きていたことをまざまざと見せつけられました。絶望の中で、「共にある」協同の中から「希望」を見いだしていけるか、みんなといっしょに、そして福島の人たちと共にもう少し頑張ってみます。
専務理事	柿崎 洋	常任	15年の生協経験と人のつながりを生かし、地域で圧倒的存在感を出せる様な職員・組合員・生産者集団をつくれるように努力いたします。
理事	加藤 理子	龍ヶ崎市	前期も理事を務めさせていただきましたが、まだ不慣れでどのように地域の方たちとの交流を深めていけば良いのか手さぐり状態ですが、まだまだ続く放射能汚染にへこたれず、子どもたちが元気にすごせる地域になるように皆さんの力を貸していただきながら、少しずつ出来ることをやっいていこうと思ひます。
理事	野口 由美子	守谷市	前期に引き続き理事をやらせて頂きます。前2年間の経験を踏まえ、自分らしく生協のお役にたてたらと考えています。よろしくお願ひいたします。
理事	小松田 文子	牛久市	一組合員として少しでもお役に立ちたいと思ひで、微力ながらがんばります。
理事	柴田 由美子	土浦市	ちょうど加入10年目だということがわかりました。組合員さんの中では決して長い方ではないと思ひますが、いつの間にかそんな時間が経っていたかと思ひながら不思議な気持ちです。この節目の年(個人的にですが)に理事をお引き受けたのも何かのめぐり合わせと、見当違い、方向音痴にならないように気をつけながら、私も少し頑張ってみようと思ひております。微力ですが、どうぞよろしくお願ひいたします。
理事	高橋 麻里	つくば市	早いもので生協に加入してから12年になりました。注文して買っただけだった私ですが、昨年の震災以後、何かしなければという思いに駆られて脱原発とくらし見直し委員会に参加して初めて生協の活動を体験してきました。放射能に多くの食品が汚染された今日、常総生協でよかったと改めて感じています。今後も食品や生活の安心・安全のため、微力ながら生協の活動をお手伝いできればと思ひています。実際の運営はわからないことばかりですのでご指導よろしくお願ひ致します。
理事	田口 哉子	つくばみらい市	常総生協に入っていてよかったと思ひることが増えるよう、何かお役に立てることがあればと考えてます。微力ながら、よろしくお願ひ致します。
理事	名和田 鶴子	取手市	いつも安心安全な食材を届けていただきありがとうございます。常総生協の「食は命」の考え方を原発事故の影響下にある地域で具体的に生活に生かす仲間を増やしていきたいです。休眠されている会員さんにもお声をかけさせて頂きたいと思ひます。微力ですが宜しくお願ひ致します。いろいろなことを学ばせて頂きたいです。
理事	松葉 美穂	柏市	鈴木牧場のヨーグルトを食べてその味に感動して組合員になりました。食の安全より、味に感動して食べていましたが、昨年3月より食の安全について真剣に考えるようになりました。何のお役にも立てないかもしれませんが、食の安全について考えていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。
監事	丸町 芳夫	守谷市	大変な1年間の生協活動を見てきて、何かの力になればと思ひ、また立候補させて頂きます。職員、生産者、組合員が生き生きつながりあって、安心安全な食品で生活できるようにしましょう。
監事	山成 菊子	取手市	今まで常総生協より安心安全な商品提供や色々な知識をいただき、借りを作っていますので、今度は監事のお役を教えを乞いながら、その借りを少しでも返していけたらと思ひます。不安ですが何とか挑戦してみます。
監事	柳町 弘美	牛久市	累積欠損を解消し、理事から監事へと役は変わりますが、しっかり見守ってゆきます。職員を大事にしなが、生協の基盤をつくることますます重要になってきます。常総生協の更なる前進のため、微力ながら私にできる事を職員・組合員と一緒に協力していきます。